

## 本体消毒器



**注** 消毒中は上蓋を使用しないで下さい。

- 1 上蓋をとり、止金はずして、主体部とメタノールタンクを分離します。メタノールタンクに100cc～2,000ccまでの(メタノール使用量は別表によります)消毒容積により、適量のメタノールを注入し、メタノールタンクに主体部をのせ、止金を掛けます。



- 2 一般室内の場合、主体部上部の湯槽に(メタノール量の多少にかかわらず)熱湯を7分目注入します。



- 3 電源コードを室内の電源差込口に差込み、押ボタンスイッチを押して下さい。パイロットランプが点きます。パイロットランプは10分～13分で消えます。ランプが消えると白金触媒作用で内部の触媒器が反応熱を出したら、強烈なホルマリンガスとなって自動的に発生し完全消毒が施行されます。消毒物品は、ホルマリンガス発生時間(別表による)終了後、2時間以上経過してから取り出して下さい。





### 取扱上の注意

- ① 上蓋は消毒施行中に使用しないで下さい。
- ② 定められた取扱方法及びメタノール使用量を守って下さい。
- ③ 消毒器の周囲(1m以内)に可燃物を置かないで下さい。
- ④ 本器中心部は耐熱ガラスヒーターを使用しておりますので移動の時などは強いショックなど慎重にお取り扱い下さい。
- ⑤ 外部にガスが漏れないよう十分密封された部屋で使用して下さい。

### 使用後の注意

- ① 消毒終了後の室内には十分換気してから入室して下さい。
- ② 窓による換気や換気扇のスイッチが室内にある場合等、消毒終了後直接に入室する方はガスを吸わないようマスク等で補いなるべくガスの吸引を避けて下さい。
- ③ 食器等直接人の口に触れる物は水洗いしてから使用して下さい。
- ④ 消毒器内部の湯槽に残ったお湯は腐蝕の原因になりますので必ず捨てて水分を拭き取って下さい。
- ⑤ 湯槽に穴があき水が下部に漏れますと、白金触媒及び耐熱ガラスヒーターにかかり破損します。破損しますと多額の修理費用がかかりますので特に注意して下さい。
- ⑥ 尚、湯槽の交換は当社に有りますので(有料)すぐ取り替えて下さい。

### オーバーホールについて

- ① 毎日のように使用される場合は白金触媒等が頻度によりカーボンの付着による化学反応の低下をきたす場合があります。
- ② 触媒器のオーバーホール並びに薬品の補充が必要です。
- ③ 2年に1度程度の定期検査をお勧め致します。  
尚、電気調整及び数回の実験等を行いますので有料となります。

## 責任保償

当社では十分に電熱温度、ホルマリンガス、発生濃度等検査の上、お客様に出荷ご使用頂いておりますが、お買い上げ頂いてから1年間は、万一不都合がありましたら無料修理をさせて頂いておりますので、ご安心の上ご使用下さい。